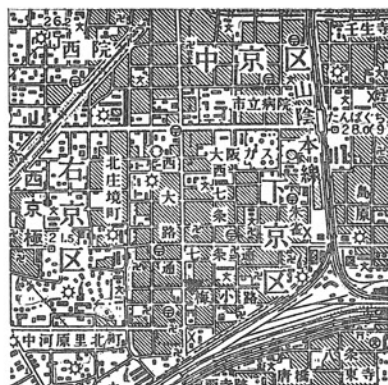


# 京都・平安京右京八条二坊十二町

- 1 所在地 京都市下京区御所ノ内本町
- 2 調査期間 一九八六年(昭61)八月
- 3 発掘機関 財京都市埋蔵文化財研究所

- 4 調査担当者 久世康博
- 5 遺跡の種類 都城跡
- 6 遺跡の年代 平安時代～中世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

本調査はマンション建築工事に伴う立会調査である。当該地は右京八条二坊十二町に推定されており、調査地は同町の北東隅に位置する。



(京都西南部)

調査の結果、現地表の下  
○・八〇・九mで、南北  
溝(SD一)、東西溝(SD二)、  
北東から南西に斜行する溝  
(SD三)計三条の溝を検出  
した。当研究所の条坊復元  
に基づく、SD一は西堀  
川小路西側溝、SD二は梅

小路南側溝と考えられる。それぞれの溝から平安時代後期の遺物が出土している。木簡が出土した遺構はSD三である。出土した遺物は木製品のみで土器はなかったが、層位関係よりみてSD一・二より新しい時期のものである。木簡の釈読にあたっては、川嶋将生氏(京都市歴史資料館)の協力を得た。

## 8 木簡の釈文内容

(1) ×□吉

(122)×22×6 019

(1)の上部は燃えたような痕跡が見られる。他に上端部付近に切り込みのある木片が一点出土したが、墨書は見られない。

## 9 関係文献

京都市文化観光局・財京都市埋蔵文化財研究所『京都市内遺跡試掘立会調査概報』(一九八六年)

(久世康博)